

▶15日 火曜

ルカ



21:10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、

21:11 り、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現われます。

21:12 しかし、これらのすべてのことの前に、人々はあなたがたを捕えて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。

21:13 それはあなたがたのあかしをする機会となります。

21:14 それで、どう弁明するかは、あらかじめ考えないことに、心を定めておきなさい。

21:15 どんな反対者も、反論もできず、反証もできないようなことばと知恵を、わたしがあなたがたに与えます。

21:16 しかしあなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにまで裏切られます。中には殺される者もあり、

21:17 わたしの名のために、みなの方に憎まれます。

21:18 しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。

21:19 あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。

21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

21:21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立

ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいってはいけません。

21:22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

21:23 その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

21:24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

「恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現れる」というのですが、主イエスはそれらから逃れる方法を教えて、ただ守られれば良いというではありませんでした。弟子たちはむしろ「あかしをする」ことが求められ、それらがその「機会」となるということです。

これは何か厳しい言葉のようにも思えますが、神様は愛のお方ですから、私たちに苦しい使命だけをとお与えになるわけではありません。「しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。」と約束してくださるのです。

私たちもこの世にあって、自分だけは苦しみを逃れたいと思うのではなく、苦しみの中にこそ使命を果たせることを覚えましょう。そのような弟子には、主は恵と守りで答えてくださいます。

当時のユダヤ人はエルサレムの滅亡とこの世の終わりを同じように考えていました。それに合わせてイエス様は、彼らが理解し易いように教えたのかもしれない。私たちも自分の人生の大難難に際して、世の終わりのように思うことがあるでしょう。

そしてそれらには共通点があります。一つには、それがいつ起こるか分らないことです。私たちは

何が起ころうとも常に神様に目を向けられられるように、信仰によって歩んでいかなければなりません。また一つには、苦難からの救いは主にあるということです。私たちは常に主に信頼し、その御手に頼る歩みによって、神の現実感を持つ必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

